



御妊娠おめでとうございます。出産までの大切な健診のご案内です。

分娩予定日(40週0日) 月 日 本日: 月 日/ 週 日

注) 必要に応じて検査・処置が追加される場合がございます

妊娠週数	検査内容	妊婦健診
10 週頃	経膈エコー 採血(血糖の検査があります) 	●血糖の検査のため、予約時間の3時間前までに食事をすませてください。 ●毎回、体重・血圧・尿検査があります。 体重・血圧を測り、測定用紙と母子手帳を受付に出してください。 検尿:持参された採尿管をご提出ください。またはお手洗いで記名した採尿カップに採尿して下さい。
12 週頃	経膈エコー クラミジア検査、子宮頸がん検診	
16 週頃	腹部エコー、採血(食事は関係ありません)	
20 週頃	腹部エコー	★胎児スクリーニング検査のため 平日のご受診をお願いしております。
24 週頃	腹部エコー	
26 週頃	腹部エコー	
28 週頃	腹部エコー、経膈エコー	
30 週頃	腹部エコー	★胎児スクリーニング検査のため 平日(水・金曜)のご受診をお願いしております。
32 週頃	腹部エコー、採血(食事は関係ありません)	
34 週頃	腹部エコー、保健指導 ★術前検査(帝王切開予定の方のみ) 採血(食事は関係ありません)、心電図	後期保健指導(入院時期や出産準備用品等) 妊娠後期になると、むくみが出ることがあります。 指輪ははずしておきましょう
36 週頃	腹部エコー、細菌検査、採血(食事は関係ありません)	
37 週以降	腹部エコー、NST、内診	NST とは?…赤ちゃんの状態と子宮の収縮を見る機械を30分程度お腹につける検査です。 内診とは?…子宮口の状態を確認します。 ※内診の刺激で出血がみられる場合もあります ★平日のご受診をお願いしております。



	検査項目	検査内容
1	血液型・不規則抗体 (10週)	妊娠・分娩中には予期せぬ出血が起こることがあり、輸血を必要とすることがあります。またまれに不規則抗体が陽性であり、新生児黄疸など胎児溶血性疾患の原因になることがあります。このような場合に備えて、あらかじめ検査しておくことが必要です。
2	風疹抗体 (10週)	風疹は俗に「3日はしか」ともよばれ症状自体は軽いものですが、妊娠初期に感染すると、胎児に先天性風疹症候群と呼ばれる胎児奇形が発生する事が知られています。最近ではワクチンの接種を行っている方でも、再感染の可能性があり検査で確認することが必要です。
3	HIV(AIDS)ウイルス抗体 (10週)	AIDSウイルスに感染していると、約30%に母児感染が存在するといわれています。またエイズウイルスに感染している場合、妊娠を契機に発症することがあります。
4	子宮頸部細胞診 (子宮頸癌検診)(12週)	子宮頸癌は早期診断により完全に治すことが可能です。より早期に発見できれば、治療後も妊娠の継続が可能です。検査は内診時に行います。
5	トキソプラズマ (10週)	猫の糞、牛・豚の生肉を介して感染する病気。妊娠中に初感染するとごくまれに赤ちゃんが先天性トキソプラズマ症にかかることがあります。
6	B型肝炎ウイルス抗原 (10週)	B型肝炎ウイルスは急性肝炎の原因のウイルスで、妊娠そのものには影響が無く出産や授乳も普通に行えます。ウイルスが活発な場合は、分娩時に産道感染する心配もあり、誕生後の赤ちゃんに予防接種を行うこともあります。
7	梅毒 (10週)	性感染症のひとつである梅毒にママが感染していると、胎盤を通じて赤ちゃんに感染し、流・早産や先天性梅毒をひきおこすことがあります。抗生物質による治療が可能であり、早期にわかれば先天性梅毒児の発現も防げます。
8	C型肝炎ウイルス(HCV) (10週)	B型肝炎ウイルスと同じ急性肝炎の原因のウイルスです。C型肝炎ウイルスに感染すると持続的に感染した状態になりやすいことが知られています。HCV抗体陽性者の約10%に母児感染が存在すると言われています。帝王切開のほうが感染するリスクが低くなります。
9	成人T細胞性白血病 ウイルス抗体(HTLV) (16週)	成人T細胞性白血病ウイルスの有無を調べます。感染していても妊娠・出産は可能ですが、母乳を介して赤ちゃんに感染する可能性があります。
10	貧血 (10週 32週 36週)	妊娠中は鉄欠乏性貧血になりやすく、血液検査で血液中のヘモグロビン濃度が11.0g/dl未満の場合貧血と診断されます。重症化すると体力が低下して分娩が長引くこともあるため、数値が低い場合は食事指導や鉄剤を服用して改善します。
11	血糖値 (10週)	糖尿病の早期発見の目的で行われます。もしも、血糖値が高値の場合はさらに詳しい糖負荷試験を行います。
12	D-ダイマー (16週、32週)	血液の固まりやすさを調べ、血栓ができやすいかどうかを調べます。血栓ができやすいと、分娩後にエコノミークラス症候群と同じような症状が起きることが間々あるため、検査し予防に努めます。
13	クラミジア検査(12週) 膣内細菌検査(36週)	産道の菌の検査です。産道にクラミジアがいると、早産の原因になったり、出産時赤ちゃんに感染を起し結膜炎や肺炎を起こします。B群溶連球菌は、流早産の原因になったり、分娩時に赤ちゃんに感染することによって赤ちゃんが重篤な病気になる場合があります。B群溶連球菌が検出された場合は分娩時に抗生剤の点滴を行います。
14	肝腎機能検査(10、32週)	体内を調整する機能を確認し、安全に妊娠・分娩が出来るように準備と診断をします。



当院のお産



どんなお産がしたいですか？

当院では、お母さんと赤ちゃんの安全を第一に、ご希望に沿ったお産を心がけています。助産師が寄り添い、呼吸法や姿勢の工夫など、一緒に頑張ってお産の手助けをいたします。

- * 状況により、医師が必要と判断した時には、陣痛促進剤の使用や吸引分娩・鉗子分娩等の医療行為を行うこともあります。その際はモニター管理のもと、分娩が安全に進行するように適切に管理いたします。
- * 必要時には緊急帝王切開に素早く移行できるように、常にスタッフ・機材ともに準備を整えています。

産まれたあとも、スタッフがしっかり見守ります

当院ではカンガルーケアを実施しています。

産まれたばかりの赤ちゃんをお母さんの胸の上で抱っこできます。

お互いのめくもりのなかで、産まれてきてくれたことへの感謝を伝えましょう。

かけがえのない親子の時間を大切にしましょう。

スタッフが寄り添い、安全に過ごせる様見守ります。



立会い分娩の勧め

出産は、赤ちゃん誕生の喜びに満ち溢れる瞬間です。

そしてもうひとつ、ご夫婦・ご家族の絆がより強くなる時でもあります。

新しいママとパパで赤ちゃんを迎えてあげてはいかかですか？

育児を支えます

産まれたばかりの可愛い赤ちゃん。初めてのお母さんにとっては、不安もいっぱいあると思います。

抱っこ・オムツ交換・授乳等の育児を、お母さんのご希望をうかがいながら、楽しく行えるようお手伝いします。

